

1 学校教育目標

健やかな身体と豊かな人間性、社会的・職業的自立に必要な力を養い、社会に貢献できる生徒を育成する。

＜校訓＞ 挑戦 自立 共生

2 学校の特徴

- ・本校は、障害の程度が比較的軽い知的障害のある生徒を対象とした高等特別支援学校であり、1学年3学級24名を定員としている。
- ・卒業後の一般企業等への就職のために必要な社会的・職業的自立に向けた指導を行うために職業学科（生産・サービス科）が設置され、職業教育のための施設や設備の充実が図られている。
- ・作業学習では、実践的な働く力と社会性が身に付くように、「近隣施設等での実習」「企業からの受注作業」「外部講師による専門的な指導」など、地域や地元企業と連携して、具体的・実践的な体験を重視した教育活動を計画的に展開している。
- ・教科学習においても、生徒の社会的・職業的自立に必要な力を養うため、毎年見直しを重ねているシラバスに基づき、学習を系統的・段階的に進めている。

3 学校の現状と課題

(1) 現 状

- ・本年度、1年生が13名入学し、2年生18名、3年生11名と合わせた在籍数は42名である。軽度知的障害の他に発達障害や精神疾患などを併せ有する生徒も在籍しており、生活習慣、人間関係、コミュニケーション面などについて指導や配慮が必要な者もいる。
- ・開校当初から、地域の方と一緒に学校周辺の清掃やウォーキングの活動に取り組んでいた。コロナ禍に行事を削減したが、それ以降、徐々に再開してきた。しかし、近年、クマやイノシシ等が出没するおそれが発生し、地域の清掃活動を廃止せざるを得なくなった。このような状況になったことで、生徒会で取り組んでいる「あいさつ運動」を地域の中で行っても、生徒から地域の人へ挨拶をすることがおろそかになった。
- ・本校のPTA活動は、進路学習会や親子ボランティア活動の企画・運営、PTA便りの発行などを行っている。昨年度「学習会に出席できなかった方へ内容が伝わると良い」「参加しやすい日程を検討してはどうか」「いろいろな人に役員をやってもらいたい」などの意見が出た。その上で、PTA活動の原則である「任意加入・無償ボランティア」ということを踏まえ、無理のない協力と継続可能な仕組みづくりが課題となっている。会員が楽しく活動に参加できる企画や運営の仕方を見直す時期にきている。

(2) 課 題

- ・本校の生徒は、学校生活に慣れてきても、自分から積極的に声を出して挨拶することに恥ずかしさや抵抗をもつ生徒が多い。卒業後に一般企業等への就労を目指している学校であることを踏まえ、慣れない人や異世代の人達との関り方や交流に意識をもたせることが重要であると考え。そこで、地域の方の協力を得て、生徒のコミュニケーション能力の向上を図りたい。また、本校の実態に合った交流の在り方を模索しつつ、地域とのつながりを深めたい。
- ・本校のPTAは3つの専門委員会で組織されており、進路学習会や親子ボランティア活動、PTA便りの発行などの活動を行っている。保護者が将来に役立つことを考え、企画・運営を行っており、充実した内容となっている。しかし、活動の様子や情報などが多くの会員に伝わらないもどかしさがある。そこで、効果的な伝達手段や魅力あるPTA活動を目指し、保護者と一緒に模索していく必要がある。

(様式2)

4 学校教育計画

項 目		目標・方針及び計画	
1	学習活動	目標	自立活動の指導の充実
		計画	・自立活動の6区分に基づいた自己チェック表を活用し、生徒自身が自分の課題を把握し自己理解することで、設定した目標に対して主体的に取り組むようにする。 ・作業班毎の自立活動の取り組みについて互見授業を行い、他班の実践を学び合うと共に多角的な視点で意見交換を行うことで、授業の質の向上と指導の充実を図る。
2	学校生活	目標	防災教育の推進
		計画	・備蓄用品を実際に使用したり制作したりすることで、生徒の当事者意識及び防災意識を高める。 ・避難訓練の事前・事後学習で防災用品についても学ぶ機会とする。 ・保護者とも連携した訓練や体験を実施する。
3	進路支援	目標	進路選択に向けた関係機関との連携と安定した職業生活の推進
		計画	・進路選択に向け、昨年度策定した個別のガイドラインを参考に、関係機関と連携しながら卒業までの具体的なスケジュールを把握し、全ての生徒を対象としたガイドラインを策定する。 ・同窓会総会や学校行事に参加した卒業生や「応援はがき」の二次元コードから職業生活のアンケートを実施し、問題があれば個別に話を聞き、関係者等と協議した上で対応する。
4	特別活動 重点1	目標	地域住民との交流活動の推進
		計画	・生徒会執行部が、地域住民と交流できる活動内容について広く意見を募集し、建設的な話し合いになるための支援をする。 ・地域住民の代表と生徒会執行部で話し合いの場を設け、一緒に活動できる内容について検討し、交流する。
5	その他 教育相談 総務 重点2	目標	繋がり、支え合えるPTA活動の推進
		計画	・参加しやすく、楽しく学べて身に付くPTA活動になるように、充実した内容を企画し、運営を支援する。 ・PTA活動後にアンケートを実施し、活動に活かす。
	情報	目標	ICTを活用した授業の促進
		計画	・Google Workspace for Educationを活用した学習環境の整備を引き続き進める。(MSOfficeで作成済みの教材を、目的に応じて作り直す。など) ・教員のICTスキルの向上のための、ICT支援員による教員向けの研修会の実施や活用の具体例の提示を定期的に行う。

(様式3)

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

令和8年度 高岡高等支援学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	特別活動
重点課題	地域住民との交流活動の推進
現 状	開校以来、地域住民との交流活動として、流通・福祉班による「えびCafé」営業や老人福祉施設でのレクリエーション活動、パン販売は年間を通じて、継続的に取り組んでいる。一方、生徒会執行部が中心となっていた学校周辺の清掃活動やウォーキング活動は、コロナ禍の行事削減により、交流の機会が大幅に減ってしまった。その後、一部の活動は再開したが、清掃活動は昨年度から学校周辺にクマやイノシシ等が出没するおそれが生じ、廃止せざるを得なくなった。このような状況の中、生徒会で取り組んでいる「あいさつ運動」や普段の登下校時においても、お互いの顔が分からず、顔を合わせても進んで挨拶を交わすことが少なくなっている。 卒業後、社会的自立を目指す本校の生徒にとって、居住地で生活していくために、年齢の異なる方とコミュニケーションを図り、交流する意識を高めることが重要であるとする。そこで、地域住民の方との対話や関わりを経験し、お互いに充実感や達成感が得られるような新たな交流活動を見出していきたい。
達成目標	生徒会執行部が中心となった新規交流活動の実施
方 策	①生徒会で地域住民と交流することができる活動内容について話し合う。 ②執行部と地域住民の代表が事前の話し合いの機会を設けた上で、交流活動を実施する。 ③活動後の振り返りを行い、持続可能な活動内容について双方で話し合う。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:達成しなかった)

令和8年度 高岡高等支援学校アクションプラン - 2 -	
重点項目	その他 (P T A活動)
重点課題	繋がり、支え合えるP T A活動の推進
現 状	一般企業への就労を目指す生徒たちにとって、家庭のサポートは重要である。学校と家庭の連携を深めるため、本校のP T A活動は、進路学習会や親子ボランティア活動、P T Aだよりの発行などを行っている。時代の変化に伴いP T A活動は「任意加入・無償ボランティア」という原則に基づき、無理なく継続できる仕組みづくりの見直しが進められている。 そこで「できる人が、できる時に、できることを行う」ことを基本として、保護者の負担を減らし、楽しく学べて参加しやすいP T A活動を、保護者が企画・運営できるよう支援していきたい。そして、P T A活動を通して保護者間や教員との繋がりを深め、情報共有を促進するために企画・運営・参加の在り方を見直すと共に、効果的な情報発信の仕方を探る。そうすることで、活動に参加できなかった保護者や教員にとっても発信を見るだけで学びが得られ、学校や保護者間の繋がりを感ぜられるのではないかと考える。
達成目標	保護者に活動の様子が伝わる仕組みづくり 企画や運営、参加関わった保護者が達成感や充実感を味わう
方 策	①活動の様子を共有するために、P T A便りやホームページ、SNS、ICTなどを活用する。 ②会議進行の補佐や事前資料作成など、P T A活動の企画・運営をサポートする体制を整備する。 ③行事後にアンケートを実施する。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:達成しなかった)